

アベノミクスから3年余り

日本ジャーナリスト会議の機関紙『ジャーナリスト』「月間マスコミ評」に寄稿して、この10月で10年になる。10年前というと、第1次安倍政権が誕生した頃だ。民主党への政権交代を経て、第2次安倍政権のもとで「アベノミクス」なる経済政策が展開される。今から3年前の2013年2月に「アベノミクス」をテーマに、下記のようなマスコミ評を書いた。

第2次安倍政権のねらいは何か。参院選までは「安全運転」により国民の支持を引きつけ、選挙後に「暴走運転」に舵を切るのではないか。自民党の政権公約などをみても、憲法改正や集団的自衛権の行使、国防軍創設など保守色が鮮明である。海外からも日本の右傾化に懸念の声が高まる。安倍政権を特徴づけるのは、復古的な保守主義と小泉「構造改革」の再現のような新自由主義との結合である。当面の円安と株高、デフレ脱却という掛け声に惑わされることなく、安倍政権の本質を捉えることが大切だ。新聞をはじめとした巨大メディアは、現在の政治の流れに同調気味ではないか。日本の行方を左右する参院選に向け、きちんとした報道を期待したい。

それから3年が経つ。写真は昨年9月29日の中日新聞「特報」掲載による。自民党総裁に無投票で再選された安倍首相が、新「三本の矢」と称する経済政策を打ち出した。3年余りが経つアベノミクスをどう評価するか。先にレポートした『日本病』の鋭い指摘を紹介したい。



・アベノミクスについて、フィルターをかけない評価を試みると、目標は達成されず、官製相場で株高を演出し、年金財政を破綻に巻き込み、株式市場の外資化を招き、大企業の内部留保と配当だけを膨らませ、貿易赤字を状態化させている。

しかも、本来、今回の異次元の金融緩和は、金利が上昇すれば直ちに財政破綻につながるという点で、持続不可能なものであり、最初から2年間で2%のインフレ率という目標自体が疑わしいものであった。ということは、安倍内閣の政権中枢自体が、この異次元の金融緩和を用いて「株高」を演出すればそれでいいという、「偽薬」の政策として行っているのではないかという疑いが濃い。

そして安倍内閣は、「株高」演出の間に、安倍首相が本来やりたかった特定秘密保護法、安全保障関連法などの「戦争法案」制定に急傾斜していき、当初のマスコミの「株価上昇」「経済再建」の熱狂的支持にもかかわらず、いまや経済専門家の大半はアベノミクスを公然と支持することを止め、口にしなくなっている。

つまり、政権延命と、戦争を可能にする法案を進めるための隠れ蓑として、フィルターをかけた大量のデータが「アベノミクスの成功」として政府から垂れ流されたのであ

る。しかし「偽薬」の政策は無害ではない。「偽薬」が恐るべき「麻薬」になっていく過程を見ていく必要がある。

・安倍政権は選挙のたびに、「経済最優先」と言ってアベノミクスを前面に掲げてきたが、アベノミクスの「三本の矢」はいずれも失敗を重ねている。実際に安倍政権が最優先でやってきたのは、特定秘密保護法制定、閣議決定による集团的自衛権行使容認、武器輸出三原則の見直し、安全保障関連法成立、原発再稼働、TPP（環太平洋経済連携協定）合意などであった。アベノミクスは、明らかに安倍首相が「やりたいこと」の隠れ蓑になっている。

アベノミクスは完全に失敗しているために、安倍首相は息を吐くように嘘をつくようになっていく。これほど公然と嘘をつき、公約を軽んじている首相は珍しい。安倍首相にとって「公約」は選挙民を騙すための手段にすぎないのだろう。

前の政策の成否が「検証」される間もなく、矢継ぎ早に嘘を重ねていく。たとえ政策が失敗しても責任を問われることはない。世論に合わせた表向きの「公約」も、嘘を次々と上塗りしていくと、それと正反対の自分のやりたい政策もできる。それが安倍政権の手法である。

・2015年9月24日に、安倍首相は、自民党総裁選において無投票での総裁選出後、初めての記者会見を行い、これからは「経済最優先で「一億総活躍社会」を目指す」と宣言し、「名目 GDP600兆円」「希望出生率 1.8」「介護離職ゼロ」という新しい「三本の矢」を打ち出した。

この新「三本の矢」は矢でなく的＝目標であり、目標自体の実現可能性が疑わしいだけでなく、政策手段も実現の道筋も明らかにされておらず、しかも総裁任期を超える5～10年後に目標年次が設定されている。それゆえ、この新「三本の矢」自体が検証不可能であり、ただ「目指す」と言っていればよい。

しかも、この新「三本の矢」は、もとの「三本の矢」が失敗に終わったことを検証させないために打ち出された嘘の上塗りであることは明白である。ところが、メディアがこれに追随しているために、多くの国民はこの嘘の上塗りに追随せざるをえなくなっている。

(2016年2月28日)